

議題1 講義2に対する感想、その他疑問点等

- ・従来の指標選択の作業において留意していることと近い内容であり、それをより詳しく説明するという構成であったため、内容及び項目としては妥当であった。
- ・評価の仕事をしている人には理解できるが、それ以外の人には理解しにくいかもしれない。現場におろすところが大変。
- ・文科省等からも求められているが、定量的指標が今後はさらに必要と感じる。大学は、与えられた指標はそれとして、自ら優先あるいは重視する指標はこれだ！というのを提示する際に参考になるのでは。
- ・妥当性と信頼性だけではなく、他の項目もあるのではないか。たとえば、外部報告のための調査と内部で使う調査でのサンプルの選び方が違ったりすることがあるので、そのようなことへ注意を払うことも大切であろう。
- ・操作可能性は本質的な概念として信頼性に含まれるように思われる。これらの区別をより踏み込んで吟味してもよいのではないか。
- ・目的が相反する複数の指標があった場合、どうとらえるべきか(例、電力使用量と、教室稼働率)については、大学のミッション等をもとにして優先順位、重みづけ等を考えればいいたろう。
- ・妥当性、実用面の区分を置いているが、その意義はどこにあるのか。
- ・文言化されたリストがあることはいい。ただ、解釈は多様になるので、より詳細な説明が必要ではないか。

議題2 指標の信頼性・妥当性チェックリストの活用可能性

- ・自己点検評価書に割ける分量は限られているので、どんなエビデンスが評価基準に対して適切かを示さないといけない。そのエビデンスを考える際、全学的な取り決めはないので、このチェックリストを活用できるのではないか。
- ・指標のチェックリストとして使うよりも、そういう観点から目標や計画を見直すことに非常に役に立つのかなと思う。そもそも立てた目標が妥当なのかどうかを調べるときに役立つのでは。
- ・模範回答があるとさらに望ましい。学生支援、研究等のトピックごとに、大学共通の事例集(普遍的なリスト)のようなものができればよい。特に、現場の教員に作業をお願いして、自ら指標を作ってもらった場合、事例等が必要。
- ・チェックリストを表にして、○△×を付ける欄も設け、備考欄に具体例を示すと使いやすくなるのではないか。